

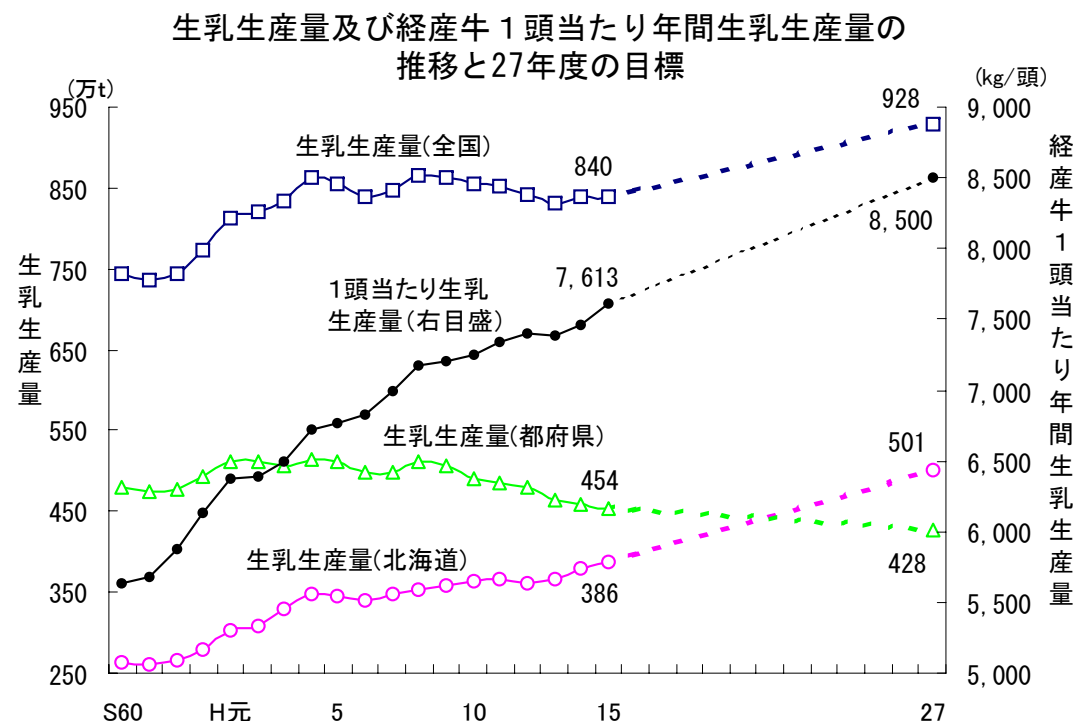
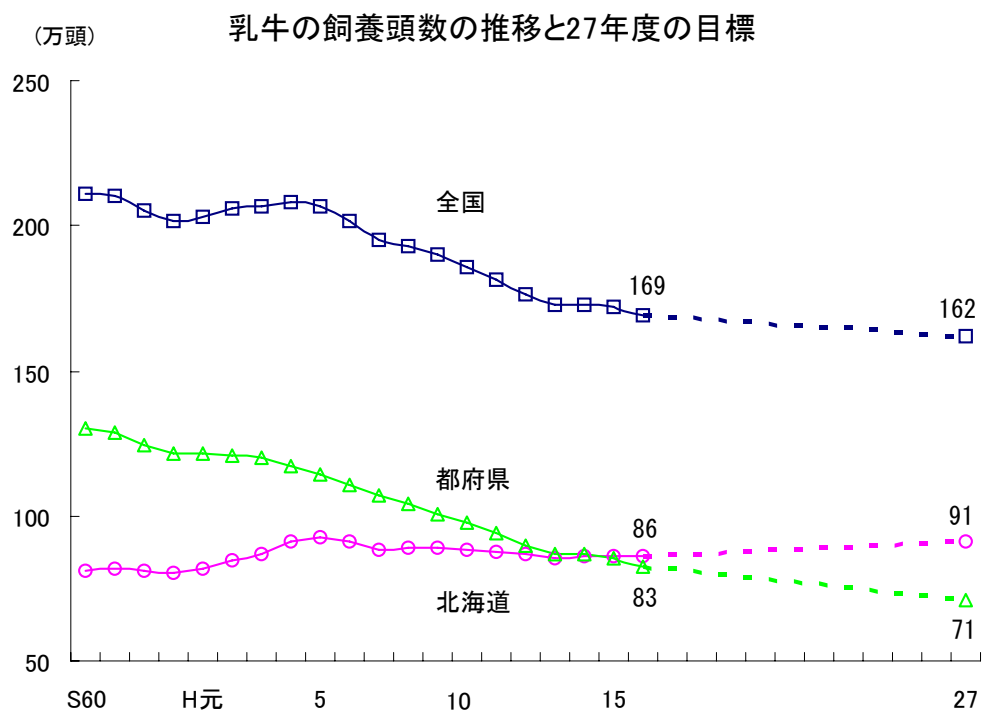
# 乳牛の飼養頭数及び生乳生産数量の推移と27年度の目標

○乳牛の飼養頭数は、長期的に漸減傾向にあるが、今後、新規就農の促進等による担い手の育成・確保、酪農ヘルパーやコントラクター等の支援組織の活用による省力化、ほ乳ロボット等の新しい飼養管理技術の導入や自給飼料の生産拡大等による低コスト化等を図ることにより、ほぼ横ばいの162万頭(H15:169万頭)と見込む。

○乳牛の成畜頭数については、更新産次の延長により、横ばいの119万頭(H15:118万頭)と見込む。

○経産牛1頭当たりの年間生乳生産量は、乳牛の改良による能力向上、遺伝的能力を発揮させる飼養管理技術の高度化により、8,500kg/頭(H15:7,613kg/頭)と見込む。

○生乳生産数量の目標は、これらにより、928万トン(H15:840万トン)と設定。



生産努力目標の実現に向けて取り組むべき課題

- 新規就農の促進等による担い手の育成・確保、乳用牛の能力向上や飼養管理技術の高度化等を通じた低コスト化(生産コストの2割程度の低減)、支援組織の活用による省力化等を通じて経営体質を強化
- 輸入品に対する競争力を有する生クリーム等の液状乳製品、チーズ等の需要拡大及び流通・加工コストの低減を図るための生産・供給体制を確立
- 家畜排せつ物の適正な管理及び有効利用

# 乳牛の地域別の飼養頭数の目標

○ 地域別飼養頭数の目標については、酪農経営の地域的動向や自給飼料生産基盤の地域差等を考慮し設定。

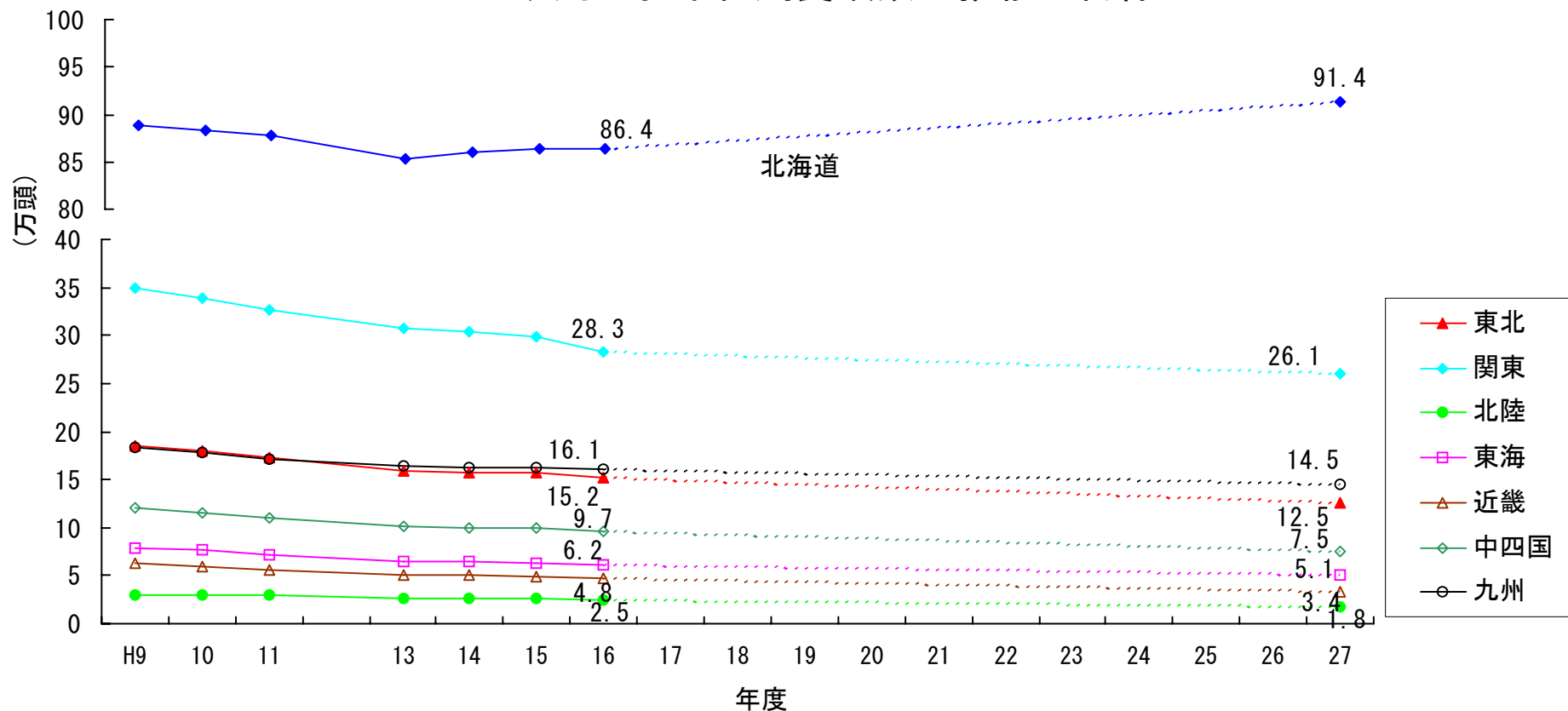
現行目標(22年度)

27年度目標

## ○飼養頭数の目標設定の考え方

・地域別の飼養頭数は、これまでにおける酪農経営の地域的動向を基に見込まれる地域別の飼養頭数の動向を基本とし、自給飼料基盤の強固な地域(北海道)とそれ以外の地域の伸び率に差を設けて設定。

### 地域別の乳牛総飼養頭数の推移と目標



# 生乳の地域別の生産数量の目標

○ 地域別生乳生産数量の目標については、地域別の経産牛頭数に1頭当たり生乳生産量を乗じて設定。

現行目標(22年度)

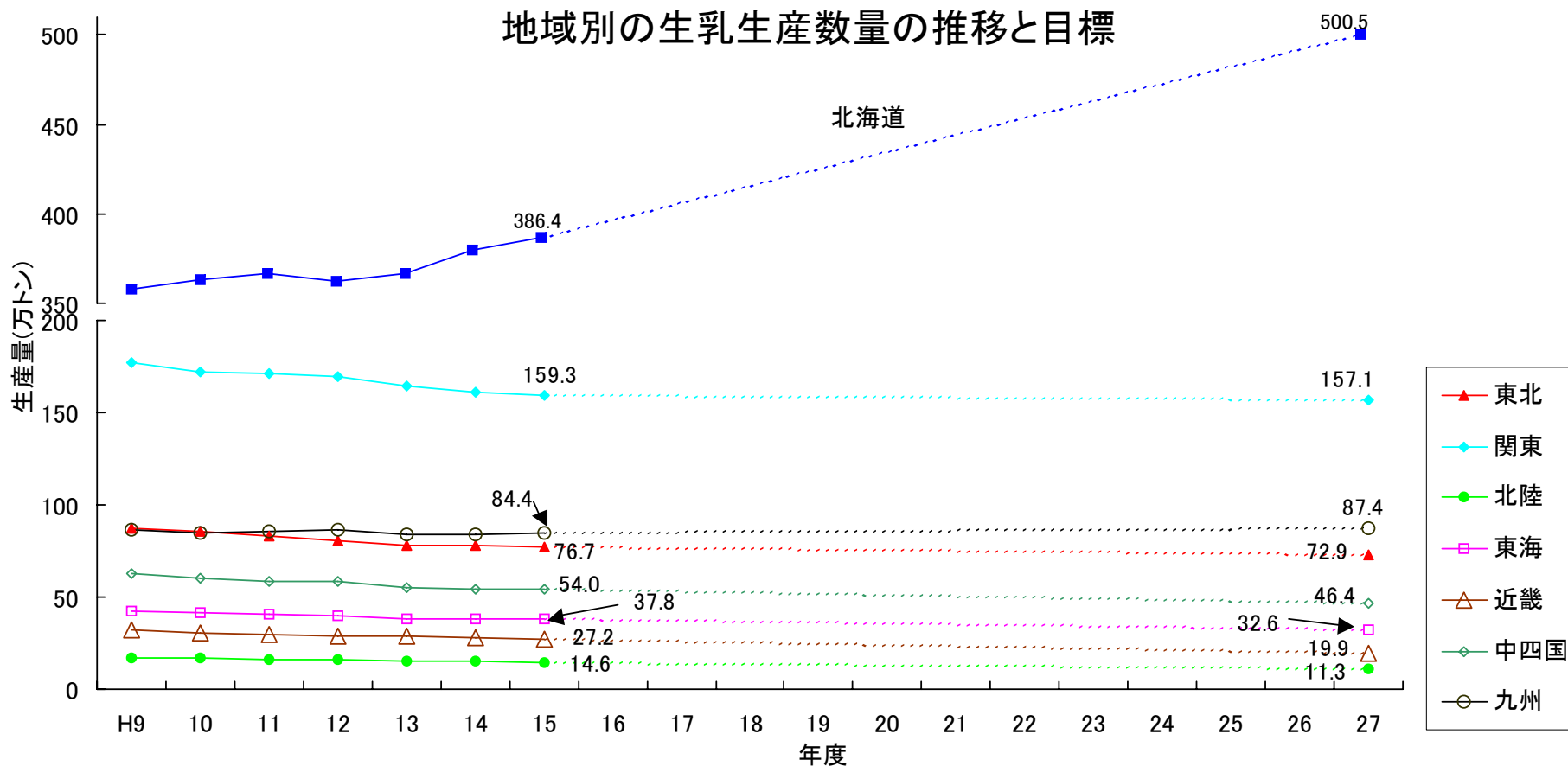
27年度目標

○地域別生乳生産数量の目標設定の考え方

地域別生乳生産数量の目標は、目標年度における乳牛頭数の目標から得られる地域別の経産牛頭数に、改良増殖目標を踏まえた経産牛1頭当たりの年間生乳生産量を乗じて設定

○経産牛1頭当たり年間生乳生産量: 8,600kg

○経産牛1頭当たり年間生乳生産量: 8,500kg

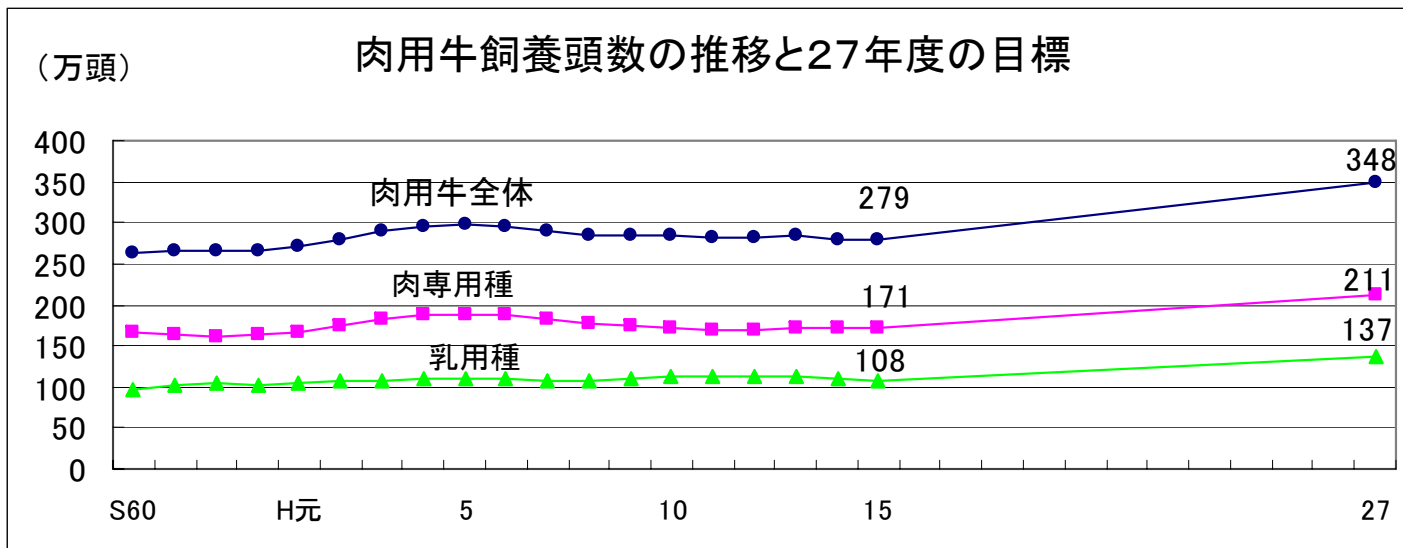


# 肉用牛の飼養頭数及び牛肉生産数量の推移と27年度の目標

○肉用牛の飼養頭数は、近年横ばいないし微減傾向にあるが、新規就農の促進等による担い手の育成確保、肉用牛ヘルパーやコントラクター等の支援組織の活用による省力化、繁殖雌牛の増頭による規模拡大、産肉・繁殖能力の向上、自給飼料・稲わらの利用拡大等による低コスト化等を図ることにより、348万頭(H15:279万頭)と増加を見込む。

○家畜改良及び飼養管理技術の高度化により、増体性の向上、分娩間隔の短縮等の生産性向上を見込む。

○牛肉の生産数量の目標は、これらにより、61万トン(枝肉換算)と設定。

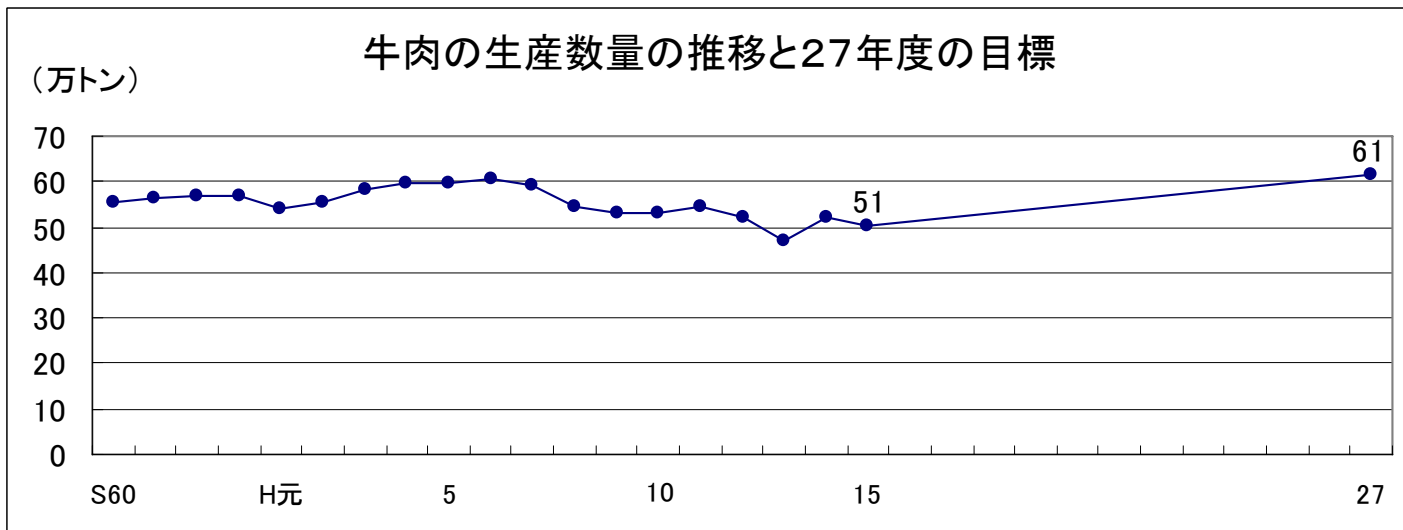


生産努力目標の実現に向けて取り組むべき課題

○新規就農の促進等による担い手の育成・確保、繁殖雌牛の増頭による規模拡大や産肉・繁殖能力の向上による低コスト化(生産コストの2割程度の低減)、支援組織の活用による省力化等を通じた経営体質の強化

○業務用・加工用需要に対応した生産・供給体制を確立

○家畜排せつ物の適正な管理及び有効利用



# 肉用牛の地域別飼養頭数の目標

○ 地域別飼養頭数の目標については、肉用牛経営の地域的動向、自給飼料基盤の地域差等を考慮して設定。

現行目標(22年度)

27年度目標

## ○地域別飼養頭数の目標設定の考え方

地域別の飼養頭数は、これまでにおける肉用牛経営の地域的動向を基に見込まれる地域別の飼養頭数の動向を基本とし、これに自給飼料基盤の地域差や、地域内・経営内一貫生産の進展状況を考慮して、主産地(北海道、九州)とそれ以外の地域とで、地域ごとの伸び率に差を設けて設定。

(万頭)

肉用牛の地域別飼養頭数の推移と目標

